

平成29年度実務研修会 各講座のテーマと内容

クラスコード	テーマ	内容
11	開講式 ・理事長あいさつ ・IAA教育シラバスの改正について ・委員会からの報告	理事長より、実務研修会の開講にあたり、当会の現状および今後の展望についてお話しいただきます。 10月のIAAカウンスルミーティングにおいて、教育シラバスの改正が承認されました。IAA正会員である当会は、新教育シラバスに沿った運営が求められます。そこで、試験・教育制度改正特別委員長より、新教育シラバスの概要と当会への影響について説明いただきます。 まず、大学教育推進委員長より、当会の大学教育の取組状況について報告いただきます。次に、事務管理委員長より、委員会の活動状況の報告と、5月に全面施行された改正個人情報保護法への対応の説明をいただきます。
21	年金数理人が知っておきたい 資産運用の基礎 ＜新規講座＞	年金数理人にとって資産運用の知識がますます重要になっています。年金ALM実施時はもちろん、平成29年度から導入された財政悪化リスク相当額の算定においても、各資産のリスクに関する知見が求められます。また、昨今の投資対象の広がりにより、幅広い資産についてリスク・リターン特性に関する知識が求められます。 本講座では、年金数理人にとって必要な資産運用の知識、とりわけオルタナティブを含む、各資産クラスのリスク・リターンの推計方法、政策的資産構成割合の決定方法、財政悪化リスク相当額（特別算定方法）の算定方法、その他の有用と思われる話題について解説します。
22	欧州主要国の年金政策と 職域年金の動向 ＜継続講座＞	欧州主要国の年金制度につき、基本的な枠組みや最近の動向を解説する講座です。 今年度は、EUの年金政策をその基本的な枠組みから解説し、後段ではオランダ・イギリス・ドイツなどの主要国を取りあげ、その職域年金の動向を紹介します。 欧州各国の年金制度について、入門編を含めた構成とする予定ですので、ぜひ受講ください。
23	退職給付会計について ＜継続講座（講師変更）＞	本講座では、退職給付制度（主に確定給付制度）に関する会計処理を扱います。資料を一新し、図表をこれまで以上に多用することで、退職給付制度が会計処理を通じて企業の財務数値にどのような影響を与えるのかを、わかりやすく説明します。 日本の会計基準を中心に取りあげますが、国際会計基準（IFRS）との相違点についても説明し、また、昨今のトピックであるマイナス金利や、リスク分担型企業年金についても触れる予定です。
31	企業年金制度の現状と課題 ＜継続講座＞	企業年金制度全般を取りあげ、幅広く現状と今後の課題について解説します。できる限り最新情報を盛り込み、あわせて、年金数理人に今後期待することについても触れる予定です。 企業年金の業務に携わる者にとって関心の高いテーマであり、例年、受講者多数の人気講座となっています。
32	国債市場と金利の期間構造 について ＜継続講座（講師変更）＞	本講座では、企業年金の財政運営や退職給付会計を考えるうえで年金数理人にとって重要となる国債金利について基本的な事項を解説します。 金利の期間構造（ゼロクーポンイールドカーブ）がどのように決まるかについての説明を中心に、具体的なイールドカーブの推定手法や、推定によって得られる国債の理論価格算出や期待リターン推定等についても触れる予定です。また、ヘッジ付外債についても簡単に紹介します。 なお、年金数理実務により近い内容を、金利や債券に関する基礎的な知識が無い方でも理解していただけるような講座になっていますので、ぜひ受講ください。
33	米国の年金制度 ＜継続講座＞	米国の年金制度について解説する講座です。例年、トピックの解説が中心でしたが、今年度は、公的年金を含む基本的な事項について一定の時間を割いて解説します。最新情報としては、状況により変更することがありますが、「多数事業主制度改革法とその後」、「労働省による信託義務規則の改正の動向」、「ギグ・エコノミーと年金制度」などを予定しています。 例年、熱心なファンが受講されています。今年度は、基本的な事項の解説も行うことになっており、初めての方にもぜひ受講いただきたい講座となっています。
41	公的年金財政 ＜継続講座＞	公的年金財政を考えるうえでの基本的な事項として、賦課方式を基本とした公的年金の財政の特徴、賦課方式と積立方式の比較、公的年金財政の均衡を図る仕組み、マクロ経済の視点からみた公的年金財政、いわゆる世代間格差についての考え方等について、公的年金の意義を踏まえつつ解説します。 加えて、平成26年財政検証等を踏まえて行われた平成28年の年金制度改革について財政的な観点から解説するとともに、次期財政検証に向けた議論等を紹介いたします。
42	確定拠出年金の最新トレンド ～企業型および個人型（iDeCo）の 活用～ ＜新規講座＞	確定拠出年金制度の普及が着実に進んでいます。会社の退職給付制度としての企業型DCは、加入者数600万人を超えDB制度の加入者数に近づいてきました。個人の自助努力制度としての個人型（iDeCo）は、規制緩和もあり、2018年上半に100万口座に到達する勢いで増加しています。 本講座では、2018年に行われるDC法改正の施行内容を解説しつつ、国民の老後資産形成にDC制度をどう活用していくべきかを考察します。法制度の解説だけではなく、フィナンシャルプランニングの観点でのDC制度の意義もお話します。
43	数理ファイナンスの基礎 ～デリバティブなどの金融商品 への展開～ ＜継続講座＞	年金数理人が理解しておきたい有価証券の価格に関する数理ファイナンスの基礎的な知識や年金資産運用コンサルティングへの活用をテーマとした講座です。 前半では、投資用有価証券について数理ファイナンスの基本的な事項を解説し、ブラックショールズモデルへ展開します。後半では、実際のデリバティブ金融商品を例にして、それを組成している金融商品に分解することで、リスク・リターン特性を把握する方法を解説します。 例年、熱心なファンが数多く受講されています。今年度はよりいっそうわかりやすく解説する予定であり、初めての方にもぜひ受講いただきたい講座となっています。
44	退職給付会計実務の フリーディスカッション ＜継続講座（双方向型）＞	退職給付債務計算等の実務に携わっている方が、日頃の実務で感じている疑問や課題等について意見交換を行う参加型の講座です。 参加される方には、退職給付会計の実務をテーマに自由にディスカッションを行っていただきます。例年、参加者の満足度の高い講座となっており、実務に携わっている方の積極的な参加を期待します。

クラスコード	テーマ	内容
51	財政運営実務基準 ＜継続講座（講師変更）＞	<p>会員が業務を遂行するにあたって理解しておかなければならない実務基準の内容を解説する講座です。平成29年1月に施行された確定給付企業年金制度の改正（「リスク対応掛金」および「リスク分担型企業年金」の導入等）に係る確定給付企業年金実務基準の改定内容を中心に、実務関係者を主な対象とした解説を行います。</p> <p>なお、この実務基準の改定については、別途解説する機会を設ける予定（平成30年2月または3月に一般研修会を開催予定）です。</p>
52	働き方改革と生産性向上を両立するための人事制度の模索 ＜新規講座＞	<p>深刻化する労働力不足や正社員の長時間労働、正規・非正規格差拡大等への処方箋として働き方改革への取組みが政府主導で進められています。</p> <p>本講座では、そもそもなぜ働き方改革が求められるのか、その背景を考えるとともに、現在各企業でどのような働き方改革の取組みがなされているのかを事例紹介します。また、働き方改革と生産性向上を両立するための人事制度とはどのような制度となるのか考えていきます。</p>
53	年金基金のリスクマネジメント ＜継続講座＞	<p>年金基金は、市場リスクやオペレーショナルリスクに限らず、多種多様のリスクにさらされています。年金数理人は年金基金のホームドクターとして、財政運営のみならず基金のリスク全般についての確かな判断を期待されています。</p> <p>本講座では、年金基金のリスクマネジメントについて定量的・定性的両面にわたり幅広い観点から解説します。リスク尺度については「リスク対応掛金」計算のための「将来発生するリスク」との関連を解説します。今年度のトピックスとしては、企業年金のBCP（事業継続計画）、およびリスクマネジメントと資産配分（デンマークのATP等）を取りあげます。また年金数理人自身のオペレーショナル・リスク（計算ミス等）についても触れます。</p> <p>継続講座ですが、トピックスを毎年3分の1程度入れ替えています。例年、受講者から好評の声を多数いただいております。特にこれまで受講されたことのない方にはぜひ受講いただきたい講座です。</p>
61	年金数理人として知っておきたい企業年金の税制 ＜継続講座（講師変更）＞	<p>年金税制については、課税局面（拠出・運用・給付）に分けて語られるのが定番化していますが、「そもそもなぜ拠出・運用・給付に分類しなければならないのか？」くらいの知見は披露できるようにしておきたいところです。</p> <p>本講座では、年金税制の基本的な解説はもちろんのこと、それにとどまらず、「租税原則」、「租税体系」、「所得概念」といった税制の基本的・理論的背景から説き起こして解説します。あわせて、「iDeCoの加入対象拡大」や「DB・DCの拠出時・給付時のイコールフットイング」などの制度改正が年金税制に及ぼす影響や今後の方向性についても考察します。</p> <p>年金数理人としておさえておきたい企業年金の税制に関する幅広い内容となっていますので、ぜひ受講ください。</p>
62	我が国の雇用の現状と課題 ＜継続講座＞	<p>我が国の雇用情勢は、平成29年の夏に有効求人倍率が約43年ぶりの水準に達し、バブル期の水準を上回る等改善が続いていると言われております。一方で量的な意味で改善を続けていてもその裏で課題があり、本講座では雇用の現状についてデータを紹介するとともに課題とその対策について解説します。</p> <p>企業年金制度と密接に関わるテーマですので、ぜひ受講ください。</p>
63	資産運用対象及び手法の最新潮流 ～ESGの話題を中心に～ ＜継続講座（講師変更）＞	<p>GPIFがESGインデックスを採用し、実際に運用を始める等、ESGという言葉が多く聞かれるようになっております。一方で、そもそもESGとは何なのか？それを考慮するとリターンは上がるのか？どうやって活用するのか？、といった素朴な疑問が聞かれます。</p> <p>本講座では、ESGについての解説を中心に、それを運用に活かしていくためには、どういったことが大切なのかを明らかにします。加えて、各インデックスベンダーの使うESGスコアリングについての特性等を分析し、その内容を紹介します。</p> <p>「ESG」を知るいい機会です。ぜひ受講ください。</p>
71	企業年金に関する裁判例の動向 ＜継続講座＞	<p>企業年金に関する最近の裁判例を紹介し、実務への影響を探ります。なお、テーマは前年度と同様ですが、裁判例は最新のものが中心となります。</p> <p>例年、受講者多数の人気講座となっています。</p>
72	退職給付会計実務基準 ＜継続講座＞	<p>会員が業務を遂行するにあたって理解しておかなければならない実務基準の内容を解説する講座です。</p> <p>「退職給付会計に関する数理実務基準」および「退職給付会計に関する数理実務ガイダンス」と、「IAS19Iに関する数理実務基準」を比較しながら解説を行う予定です。</p>
73	プレゼンテーションスキル の向上 ＜継続講座＞	<p>専門的な内容を専門家以外の人に説明する機会が多い年金数理人にとって、自分の考えを正確かつ簡潔に説明する技術（プレゼンテーションスキル）は欠かせないものとなっています。本講座では、自分が意図したことをいかに相手に理解・納得してもらうかの技術（「論理性」「情報整理」「表現力」）に焦点をあて、それを説明するための理論や必要なスキルを習得します。</p> <p>昨年度は、受講者から「実践研修がたいへん役に立った」等の評価の声をいただきました。今年度は、「伝えるということ」、「聞き手の立場で話すこと」の講義の後に、隣の席の方とペアで簡単な実習を行います。お一人での参加はもちろん、気心の知れた方とのペア参加も歓迎します。</p>
81	介護保険制度について ＜新規講座＞	<p>介護保険制度について、制度概要、現状と課題などの基礎的な内容を解説します。特に、介護保険制度と密接な関係にある医療保険制度との違いを説明しながら、講義をする予定です。</p> <p>年金数理人にとって触れる機会が少ないテーマであり、社会保障制度全体の理解を深めることに役立ちますので、ぜひ受講ください。</p>
82	日本経済の動向 ～ポスト黒田緩和で景気・相場はどう動くか～ ＜継続講座＞	<p>本講座は、エコノミストによる日本経済に関する講義となります。</p> <p>黒田日銀総裁の任期満了が間近に迫り、市場では後任人事や金融政策の枠組み変更への関心が高まっています。この講座では、ポスト黒田総裁での日銀の金融政策の行方と、日本経済・相場への影響を展望します。</p> <p>企業年金ではリスク量を意識した財政運営が始まり、日本経済や相場がどのようになっていくのか？がこれまで以上に気になる場所ですので、ぜひ受講ください。</p>
83	IFRSの全体的な動向 ＜継続講座（講師変更）＞	<p>本講座では、IFRS（国際会計基準）の全体的な動向を解説します。具体的には、最近公表された、または開発中のIFRSに関して、基準の紹介だけではなく、その開発経緯や目的等も分かりやすく説明しますので、最近のIFRSの開発動向についての基礎的な知識を得ることができる講座となっています。</p> <p>IFRSについて特段の知識が無い方でも安心して受講いただけます。ぜひ受講ください。</p>
84	財政運営に関する フリーディスカッション ＜継続講座(双方向型)＞	<p>企業年金制度の財政運営について自由に意見交換を行う参加型の講座です。</p> <p>財政運営の実務に携わっている方が日頃から感じている疑問や課題等をテーマに、参加者でディスカッションを行っていただきます。実務に携わっている方の積極的な参加を期待します。</p> <p>新規に実施した昨年度は、参加者から好評の声を多数いただきました。</p>